

美しい環境はしろいしの宝物

上戸沢地区産業廃棄物最終処分場問題について

平成4年6月に小原・上戸沢地区への産業廃棄物最終処分場の建設計画が持ち上がって以来、市民と行政が一丸となって建設反対の活動を続けてきました。昨年11月、産業廃棄物最終処分場を計画している(株)南蔵王エバクリンが、予定地内の農用地開発を宮城県が不許可にしたのは違法だとして、処分場の取り消しを求めた訴訟について、最高裁は(株)南蔵王エバクリン側の上告を受理しない決定を行いました。このことにより、仙台高裁の二審判決が確定したことになり、宮城県の主張が認められました。

当市では、二審より補助参加し、地元の意見を述べてきたところです。ここに今回の裁判の概略を市民の皆さんにお知らせするとともに、これからも引き締めて、しろいしの宝物を守り続けていきます。



▲美しい環境はしろいしの宝物(小原大熊地区のそば畑：平成16年9月撮影)



▲最終処分場予定地の位置図

産業廃棄物最終処分場計画の概要

- 予定地 小原字久根山56-1外
- 敷地面積 258,000㎡
- 埋立面積 71,400㎡
- 埋立容量 1,052,620㎡
- 障害物の種類 燃えがらや紙くず、木くず、プラスチックくず、金属くずなど

農振法に基づく開発不許可処分取消請求事件訴訟の概要

- 最高裁決定(平成18年11月24日)
 - ① 申立人(株)南蔵王エバクリン
 - ② 相手方 宮城県知事 村井 嘉浩
 - ③ 補助参加人 白石市
 - ④ 決定主文 農振法に基づく開発不許可処分取消請求上告受理申立事件一、本件を上告審として受理しない。二、申立費用は申立人の負担とする。
- 第2審判決(平成18年1月19日仙台高裁)
 - 一、第1審判決を取り消す。
 - 二、被告(株)南蔵王エバクリンへの請求を棄却する。
 - 三、訴訟費用は、白石市補助参加によって生じた費用も含め、第1・2審とも被告(株)南蔵王エバクリンへの負担とする。
- 第1審判決(平成17年1月24日仙台地裁判決)
 - 一、被告宮城県知事が、原告(株)南蔵王エバクリンに対し、平成13年10月19日付け宮城県(大産)指令第519号によってした、不許可処分を取り消す。
 - 二、訴訟費用は、被告宮城県知事の負担とする。
- 経過
 - 平成13年10月 県が農振法および廃掃法に基づく不許可処分
 - 平成14年6月(株)南蔵王エバクリンが県を相手取り、開発不許可処分取消を求めて訴訟を仙台地裁に提訴
 - 平成17年1月 仙台地裁判決(不許可処分を取り消す。県敗訴)



▲地域の水源である「しろいしのきれいな水」をみんなで守りましょう!

平成17年1月 知事に対して市長や議長、河川環境保全対策特別委員長が控訴を要請。また、期成同盟会や小原地区自治会連合会などが知事に要望書を提出。

平成17年2月 県が仙台地裁判決を不服として仙台高裁へ控訴。

平成18年1月 仙台高裁判決(一審判決を取り消す。県勝訴)

平成18年3月(株)南蔵王エバクリンが最高裁判所に上告受理申立て

平成18年11月 最高裁において、裁判官の全員一致で本件を上告審として受理しないことを決定(仙台高裁判決確定。県勝訴)

環境にやさしいことは、家計にもやさしい!

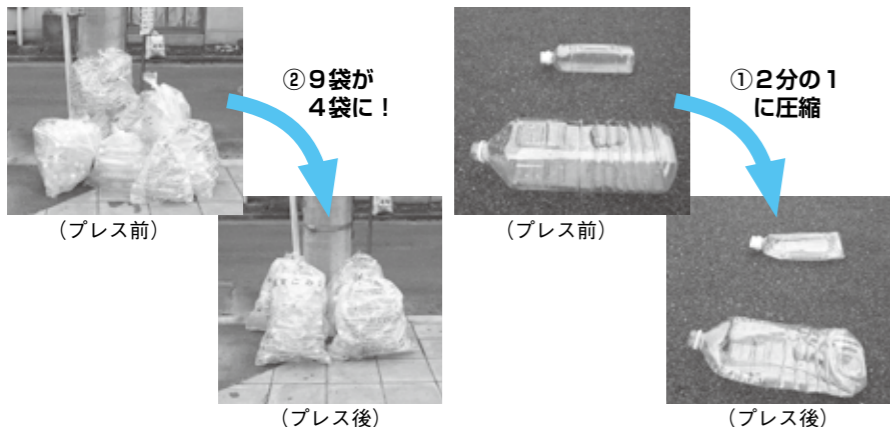
「ペットボトルプレス省資源・省コスト作戦」にご協力ください



▲ラベルをはがしてきれいに洗ってから出しましょう!

ペットボトルの使用が増加している近年、皆さんのごみ集積所ではペットボトルの袋が山となったり、道路などにあふれたり、風で転がってしまったことはないでしょうか? ペットボトルの大きな問題は、その「かさばり」にあります。

当市では現在、ペットボトルはキャップを取り外してきれいにし、資源ごみの袋に入れて収集日に搬出することとしていますが、ペットボトルをプレス(つぶす)してそのかさばりを解消すれば、非常に良い効果が生まれます。ぜひご協力ください。



省資源

ペットボトルはプレスすると、容量が2分の1程度まで圧縮されます。つまり、プレスすることにより、1袋当たり2倍のペットボトルを詰めることが可能になり、搬出用ビニール袋の使用量を削減することができます。

参考までに、ある集積所に搬出されていたペットボトルをプレスし、効率よく詰められたところ、9袋分あったものを4袋にすることができました。

省コスト

搬出用ビニール袋の使用量が2分の1になれば、袋の費用も2分の1の支出で済みますので、こういった省エネ活動を継続していけば、家計の負担も低減されます。

また、仙南リサイクルセンターでの袋を処理する費用も低減していきます。ラベルをはずしてきれいに洗えば、より一層処理コストの削減につながります。

地域環境の美化

ペットボトルをプレスするとごみ袋に詰めやすくなり、また、重くなるので風に飛ばされにくくなります。

さらに、プレス作業によって容量が減り、集積所のペットボトルの袋の山が減り、左上の写真のように集積所が整理されて地域環境の美化につながります。

プレスする際の注意点

- プレスする際は横につぶしてください。けがには十分注意してください。簡易プレス機などがあると便利です。

収集作業の軽減

ペットボトルはかさばるため、現在、収集の際は仙南リサイクルセンターまで1日に何度も往復して運搬している状況です。プレスして容量を減らし、分別確認作業や積み込み作業、運搬作業を軽減することができれば、収集作業員の負担を軽減でき、より迅速な収集を行うことができます。

ペットボトルは運搬された後、細かく破碎されるため、プレスしてもリサイクルに支障はありません。ペットボ

トルのリサイクルの詳細については、PETボトルリサイクル推進協議会のホームページをご覧ください。

● ホームページURL
<http://www.petbottle-rec.gr.jp>

「NOレジ袋」マイバッグ運動への協力をお願いします

レジ袋を安易にもらったり、ごみに出してしまったりしていませんか? レジ袋のごみを削減できれば、ごみ処理費用の削減につながり、また、限りある資源を有効に使うことができます。レジ袋削減のためのスタンプキャンペーンやポイント制度などの特典を実施している店舗もありますので、ぜひ活用しましょう。

一人ひとり、一枚一枚の削減が積み重ねること、大きなごみ減量化につながります。

市全体の環境負荷軽減に向けて

「ごみ袋の削減なんて大した効果がない」と思われる方もいるかもしれませんが、1年間に1世帯が1枚の袋を削減するだけで、市全体で13,800枚もの袋を減量できます。

ご家庭でのちょっとした手間で、環境負荷と家計負担を低減させることができます。市では、今後も3R活動(リユース、リデュース、リサイクル)などの普及啓発に努め、郷土の美しい自然環境を守っていきたくと考えていますので、市民の皆様のご協力をお願いします。

生活環境課環境対策係

☎22-11314